

I 実践

1 研究主題

互いのよさを認め合い、相手を思いやり助け合う児童の育成を目指して

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「豊かな心をもち、自ら学び考え、たくましく生きる児童の育成」である。また、本校の合い言葉である「な 仲間と共に め 目指そう か 輝く わ 私の未来」のもと、「公平で差別や偏見をもたない子ども」「思いやりの心をもち、だれに対しても親切に行動できる子ども」「仲良く助け合いながら、最後まで仕事をやり遂げる子ども」「物事を正しく判断し、行動できる子ども」「自ら学び、自ら考える子ども」「きまりを守り、健康で安全な生活をする子ども」を育てることを人権教育の目標としている。これらの目標を達成するためには、児童一人一人が互いのよさを認め合うことが大切である。そのことによって、相手を思いやり助け合う心が育まれていくと考える。そこで、様々な体験活動を通して、互いのよさを認め合い、思いやりや助け合う気持ちを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 互いのよさを認め合うための体験活動の展開
- イ 人権意識を養うための啓発活動の実施

2 実践内容

(1) 互いのよさを認め合うための体験活動の展開

ア 異学年交流

全校を12の班に分け、縦割り班遊びを行った。6年生を中心に、下級生も楽しめるような内容を考えて話し合い、遊びを行った。ドッジボールでは、低学年の児童には力を加減して投げ、また、ボールを投げる回数を増やすなど、楽しく参加できるように上級生が下級生の面倒を見たり、気遣ったりしていた。高学年のリーダーとしての意識を育てるとともに、異学年と遊ぶ楽しさを感じたり、上級生の優しさや頼もしさを知ったりする機会になっている。

読書週間には、朝の時間、図書委員が低学年に読み聞かせを行った。低学年が見やすいようにと大きな絵本を用意したり、読み方を工夫したりと相手のことを考えて行っていた。

イ 地域交流

1年生が地域の高齢者の方々と学校に招き、昔遊びを教わった。初めて経験する昔遊びに苦戦しながら優しく遊び方を教えてくれる高齢者の方々に感謝の気持ちをもつことができた。また、遊びができたときの達成感や友達から「すごいね」と言われたうれしさを感じることができた。

2年生がおもちゃ祭りに幼稚園生や1年生を招待した。自分たちで工夫して作ったおもちゃで楽しく遊んでくれていることに満足そうだった。遊び方を実演したり、幼稚園生や1年生に分かる言葉で説明したり、相手を思いやる気持ちが見られた。

4年生は、地域の方々と協力して、ホテルの棲む北川の清掃活動を定期的に行った。総合でホテルについて学習していることもあり、きれいな川に棲むホテルのために意欲的に清掃活動を行っていた。また、一緒に清掃をしてくださった地域の方々に感謝の気持ちをもつことができた。

4～6年生で構成されている音楽クラブが、交流センターで行われる敬老会に参加して演奏を行った。敬老会に来ていた高齢の方々に楽しんでもらえるようにと休み時間、放課後に練習を重ねていた。

このように、異学年や地域との交流が行われ、様々な方々と関わることで、相手を思いやることの大切さを実感することができた。



縦割り班遊び



昔遊び



北川清掃

ウ あいさつ運動

小中連携の一環として、中学生と共にいった。低学年と高学年が組となり、全学年で取り組んだ。また、中学生が加わることで、日頃の挨拶よりも意識的に気持ちのよい挨拶が交わされた。



挨拶運動

(2) 人権意識を養うための啓発活動の実施

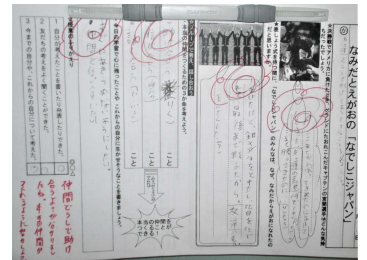
ア 人権メッセージへの取り組み

1学期の終わりに、「あったかハート運動」として全校児童で人権メッセージに取り組んだ。低学年は家庭に協力を呼びかけ、親子で人権の大切さについて考えた。児童それぞれが考える様々な内容のメッセージから、各学年数点を「あったかハート運動」のコーナーに掲示した。友達を考えや思いを知ることで、相手を認める意識をもたせるようにした。



イ 校内人権週間（なかよし週間）

全国人権週間に合わせて、校内でも人権週間を設定した。この期間に道徳の授業を中心に人権について考える機会をもち、学年ごとに人権に関する視聴覚教材の鑑賞を行った。視聴後に話し合いをし、感想文を「あったかハート運動」のコーナーに掲示することを通して、人権意識の高揚を図った。



道徳との関連

ウ よいところ発見運動

人権週間に合わせて、学校全体でよいところ発見運動を実施した。自分や友達、クラスのよいところなどをカードに記入し、昇降口の「あったかハート運動」のコーナーに掲示した。互いのよさを知り、認め合う機会となった。

エ 道徳との関連

道徳コーナーに友達の考えを掲示し、自分と共感することや違った考えを知ることによって、お互いを理解し合えるようにした。また、お互いのよいところをカードに書き教室にも掲示した。

3 成果

- (1) 異学年や地域との交流を通して、様々な人々と関わり、身近な人への感謝の気持ちや、相手の立場に立って考え、お互いを大切にしようという心が育まれてきている。また、相手から認められることのより自己肯定感が高まってきている。
- (2) 「あったかハート運動」のよいところ発見や人権メッセージへの取組、人権週間の実施により、自分自身や友達のよさに気付くよい機会となり、一人一人の存在感を高め合うことができた。また、人権に対する意識付けにもなった。

II 今後の課題

- 1 人権教育の目標や計画を職員全体で共通理解を図り、指導や具体的な活動について、各学年の計画を立案し、より実践的な活動を展開できるようにする。
- 2 児童の実態を的確に把握し、課題意識を持って指導に当たるとともに、職員の研修の機会をさらに与えてもらうようにする。

III 人権コーナーの設置の様子

昇降口の全校児童の目に触れる場所に、人権コーナーを設置した。全校で取り組んだ人権メッセージや、人権週間に授業で視聴した視聴覚教材の感想、「よいところ発見」なども掲示し、友達のよさや、クラスや学校のよさを全校で共有できるようにした。

